

助成事業実施 団体名	特定非営利活動法人 環境ネットやまがた		
実施事業名	急速充電器利用による事故の未然防止策調査・普及事業		
助成事業区分	※該当する事業名を○で囲んでください。 協働助成事業（一般型） 【県政課題名： 】 協働助成事業（テーマ希望型）【テーマ名： 】 団体支援助成事業		
団体の所在 市町村名	山形市	事業費及び 助成額	事業費 356,000円 助成額 356,000円



←県庁前の急速充電器のケーブル交換工事

↓蛇腹部の消耗を防ぐためのテーピング



## ■ 事業目的

地球温暖化対策として、平成 22 年 10 月に産官民で連携し東北初となる県庁前に電気自動車用の急速充電器を設置し、運用してきた。

一方で、平成 26 年度に県庁前急速充電器の部品の一部が消耗し、充電器の故障や利用者の感電事故の恐れがあることがわかった。このため、早期にその原因を調査・改善し、再発防止策の検討を行い、その状況に関係団体等に報告することで、県内でパイオニア的に設置し使用頻度も多い県庁前の急速充電器の事例を参考とし、県内の急速充電器の適切な運用を推進し、自動車による CO2 排出の削

減を図ることを目的とした。

## ■ 実施内容

(1) 県庁前急速充電器の部品消耗の原因調査と、再発防止策の検討

充電ケーブルの蛇腹部が消耗し応急的にテーピングしているが、この状態が続くと、想定されることとして、雨水が機械の内部に入り込み機械が壊れてしまったり、充電器の利用者が感電する恐れもある。そのため、早急に消耗した原因を調査・改善し再発防止策を検討した。

(2) 関係団体への報告

(1) の内容を関係団体へ報告し、広く情報を共有し、県内の急速充電器の運用を適切に行う際の参考事

例とすることにより、急速充電器の設置促進を図り、石炭燃料から電気への切り替えによる CO2 排出の削減を図った。

## ■ 事業の成果及び今後の展望

ケーブルを交換した上で蛇腹部の消耗を防ぐためのテーピング等の安全措置を行い、さらに機器製造メーカー等にも、機器の構造の改善等の要望も行った。今後も充電器利用者が安全に利用できるよう、もし故障等が起きた場合は、原因や対策等を考え、関係団体等に報告し、県内に多く設置している急速充電器の適切な運用の推進及び利用の拡大に努めていく。